



## ヘッドセット管理

---

- [ヘッドセット管理の概要, on page 1](#)
- [ヘッドセット管理の機能の互換性 \(1 ページ\)](#)
- [ワークフロー: ヘッドセットの有用性の設定, on page 4](#)
- [ヘッドセット テンプレート管理 \(9 ページ\)](#)
- [ファームウェア管理 \(15 ページ\)](#)
- [ヘッドセット インベントリの管理 \(16 ページ\)](#)
- [ヘッドセット トラブルシューティングと診断 \(20 ページ\)](#)

## ヘッドセット管理の概要

ヘッドセット管理によって Cisco ヘッドセットの展開が強化され、管理者は、Cisco Unified Communications Manager からヘッドセットの保守を管理できるようになります。Cisco Unified CM Administration から管理者ができること

- ワイヤレス電源範囲、オーディオ帯域幅、および Bluetooth のオン/オフをリモートで構成します。
- ヘッドセットのファームウェアを定義および制御します。
- 展開内のすべてのヘッドセットの詳細なインベントリを取得します。
- Remote PRT、Call Management Records (CMR) のメトリクスおよびアラームを使用して、ヘッドセットの診断およびトラブルシューティングを行います。

## ヘッドセット管理の機能の互換性

シスコ ヘッドセットの管理は、次のリリースから Unified Communications Manager でサポートされています。

- 11.x リリース用 リリース 11.5 (1) SU7
- 12.x リリース用 リリース 12.5 (1) SU1

Unified Communications Manager のバージョンと共に、機能サポートはシスコヘッドセット、Cisco IP 電話、および Cisco Jabber のファームウェアバージョンに依存しています。次の表に、使用するヘッドセット、電話、および Unified Communications Manager の各バージョンに応じて使用可能なヘッドセット管理機能を示します。



(注) シスコヘッドセットの管理機能は、12.0 (x) または 12.5 (1) ではサポートされていません。旧バージョンでは、IP 電話用のヘッドセット設定テンプレートを defaultheadsetconfig.json 設定ファイルと TFTP を使用して手動で送信できるように制限されている場合があります。詳細については、「ヘッドセットのアドミニストレーションガイド」を参照してください。

表 1: Cisco IP Phone のヘッドセットの有用性功能

新しい有用性功能	Unified CM 12.5 (1) 以前 + 電話機ファームウェア 12.1 (1) 以前	Unified CM 12.5 (1)SU1 以降** + 電話機ファームウェア 12.1 (1) 以前	Unified CM 12.5 (1) 以前 + 電話機ファームウェア 12.5 (1)	Unified CM 12.5 (1)SU1 以降** + 電話機ファームウェア 12.5 (1)	Unified CM 12.5 (1) またはそれ以前 + 電話機ファームウェア 12.5 (1) SR3	Unified CM 12.5 (1)SU1 以降** + 電話機ファームウェア 12.5 (1)SR3
COP ファイルのインストールが必要	X	X	X	X	X	—
手動によるリモート設定	—	—	X	なし	X	—
Unified CM でのヘッドセットファームウェアの管理	—	—	—	—	—	X
Unified CM によるリモートヘッドセットの設定	—	—	—	—	—	X
Unified CM のヘッドセットインベントリ	—	—	—	—	—	X*
電話機の UI での設定のリセット	—	—	—	—	X	X
ヘッドセット コール管理レコード (CMR)	—	—	—	—	—	X*

- \*この機能は、ヘッドセットファームウェア 1.5 以降を搭載したヘッドセットでのみ使用できます。
- \*\*この機能は、12.0. x および 12.5 (1) リリースではサポートされていません。

- 以前のバージョンから Unified CM 12.5 (1) にアップグレードすると、ほとんどの Cisco IP 電話は自動的に Phone ファームウェア 11.5 (1)SU7 以降にアップグレードされます。

表 2: Cisco Jabber のヘッドセットの有用性機能

新しい有用性機能	Unified CM 12.5 (1) 以前のバージョンのバージョン 12.5 (1) 以前の Jabber	Unified CM 12.5 (1)SU1 + Jabber バージョン 12.5 (1) 以前	Unified CM 12.5 (1) 以前の + Jabber バージョン 12.6 (1)	Unified CM 12.5 (1)SU1 + Jabber バージョン 12.6 (1)	Unified CM 12.5 (1) 以前の + Jabber バージョン 12.6 (1) MR	Unified CM 12.5 (1)SU1 + Jabber バージョン 12.6 (1)MR
COP ファイルのインストールが必要	X	X	X	X	X	X
Unified CM によるヘッドセットファームウェアの管理	—	—	—	—	—	X
Unified CM によるリモートヘッドセットの設定	—	—	—	X	—	X
Unified CM のヘッドセットインベントリ	—	—	—	X*	—	X*
ローカル構成リセット	—	—	—	—	X	X
ローカル UI の設定	—	—	X	X	X	X
ローカルヘッドセットのバージョンの表示	—	—	—	—	X	X

- \*この機能は、ヘッドセットファームウェア 1.5 以降を搭載したヘッドセットのみを検出できます。
- \*\*この機能は、12.0. x および 12.5 (1) リリースではサポートされていません。

## サードパーティのヘッドセットのサポート

サードパーティヘッドセットを導入している場合、Cisco Unified Communications Manager は、Cisco Unified CM の管理インターフェイスから、サードパーティヘッドセットに関する制限付きの情報によって、ヘッドセットインベントリ管理をサポートします。Cisco Unified Communications Manager は、サードパーティヘッドセット用のヘッドセット設定テンプレート、ファームウェア、診断、およびヘッドセット CMR をサポートしていません。

## ワークフロー: ヘッドセットの有用性の設定

次のワークフローを使用して、Cisco ヘッドセットの有用性機能のセットアップをガイドします。

このワークフローを完了すると、ヘッドセット設定の構成、ヘッドセット最新ファームウェアロードの保持、ユーザへのヘッドセットの関連付け、ヘッドセットベースのExtension Mobilityの有効化、およびインベントリの保守を行うことができます。

### Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	シスコ ヘッドセット サービスを有効化する, on page 5	シスコの統合された有用性でシスコヘッドセットサービスをオンにします。
ステップ 2	ヘッドセット COP ファイルを準備する, on page 5	COP ファイルを使用して、最新のヘッドセットファームウェアをインストールしてアップグレードしていることを確認してください。
ステップ 3	ヘッドセットユーザ用のユーザプロファイルの設定, on page 6	ユーザのユーザプロファイルがまだ設定されていない場合は、次の手順を使用してプロファイルを設定します。ユーザプロファイルがすべて設定されている場合は、このタスクをスキップできます。
ステップ 4	エンドユーザにユーザプロファイルを適用する, on page 8	ユーザプロファイルをエンドユーザに割り当てます。すでにユーザプロファイルが割り当てられている場合は、このタスクをスキップできます。
ステップ 5	ヘッドセットテンプレートの設定, on page 14	Cisco ヘッドセットテンプレートのデフォルト設定とファームウェアを設定します。そのユーザプロファイルを使用しているユーザがこのヘッドセットテンプレートに割り当てられるように、ユーザプロファイルをテンプレートに関連付けます。
ステップ 6	ヘッドセット インベントリの表示, on page 18	Cisco Unified CM インターフェイスを使用して、展開したヘッドセットインベントリを確認できることを確認します。

## シスコヘッドセットサービスを有効化する

Cisco Unified CM Administration インターフェイスを使用して Cisco ヘッドセットとアクセサリの管理を開始する前に、Cisco Unified Communications Manager の有用性をオンにします。



- (注) Cisco ヘッドセットサービスは、Cisco CallManager サービスがすでに実行されているすべての Unified Communications Manager ノードでアクティブにする必要があります。Cisco Unified CM の管理インターフェイスを使用して、ヘッドセットを管理する Unified Communications Manager で Cisco ヘッドセットのサービスをアクティブにしてください。Cisco ヘッドセットサービスを有効にすると、Cisco CallManager サービスは自動的にアクティブになります。不要な場合は、Cisco CallManager サービスを非アクティブにします。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理から、**Cisco ユニファイドサービス**に移動し、[Go] をクリックします。
- ステップ 2** [ツール (Tools)] > [サービスのアクティベーション (Service Activation)] を選択します。
- ステップ 3** [CM サービス (CM Services)] セクションから**Cisco ヘッドセットサービス**のチェックボックスをオンにし、[保存 (Save)] を選択します。

### 次のタスク

ヘッドセット COP ファイルを準備します。

## ヘッドセット COP ファイルを準備する

COP ファイルを使用して、最新のヘッドセットファームウェアをインストールしてアップグレードすることができます。ヘッドセット COP ファイルには、それぞれの設定データとともに、さまざまなヘッドセットモデルのすべてのファームウェアバージョンが含まれています。



- (注) COP ファイルがインストールされる前に、Cisco ヘッドセットサービスが稼働していることを確認します。
- ヘッドセット COP ファイルが、Unified Communications Manager のすべてのノードにインストールされていることを確認します。
1. Cisco ヘッドセットの使用を開始する前に、COP ファイルを Unified Communications Manager にインストールまたはアップグレードします。

ヘッドセットをエンドポイントに接続すると、ヘッドセットのテンプレート設定変更が適用されます。Unified Communications Manager のヘッドセットのテンプレート設定を更新すると、エンドポイントは接続されたヘッドセットにこれらの設定更新を適用します。

すべての設定の更新は、COP ファイル内のヘッドセットテンプレートのバージョンによって異なります。ヘッドセットのテンプレートのバージョンが最新の COP ファイルよりも大きい場合は、Unified Communications Manager のコンフィギュレーションファイルが更新されます。COP ファイル内のコンフィギュレーションファイルがアップグレードされると、テンプレートのバージョンに関係なく、Unified Communications Manager のヘッドセットのテンプレートのバージョンが更新されます。その逆も同様です。次のリストは、COP ファイルのアップグレード後のさまざまなテンプレートバージョンの更新シナリオを示しています。

- 現在、Unified Communications Manager がヘッドセットのテンプレートバージョン1-10 とともにインストールされていて、ヘッドセットのテンプレートバージョン 1-12 の Unified Communications Manager サーバをアップグレードする場合、選択したヘッドセットのテンプレートのバージョンは1-12 になります。Unified Communications Manager は、より高いヘッドセットのテンプレートバージョンを選択します。
- 現在、Unified Communications Manager がヘッドセットのテンプレートバージョン1-10 とともにインストールされていて、ヘッドセットのテンプレートバージョン 1-9 の Unified Communications Manager サーバをアップグレードする場合、選択したヘッドセットのテンプレートのバージョンは 1-10 になります。Unified Communications Manager は、より高いヘッドセットのテンプレートバージョンを選択します。
- 現在、Unified Communications Manager がヘッドセットのテンプレートバージョン1-10 でインストールされており、ヘッドセットのテンプレートバージョン 1-12 の COP ファイルをインストールすると、選択したヘッドセットのテンプレートのバージョンは1-12 になります。COP ファイルと一緒にインストールされるヘッドセットのテンプレートが推奨オプションです。
- 現在、Unified Communications Manager がヘッドセットとテンプレートバージョン1-10 でインストールされており、ヘッドセットのテンプレートバージョン 1-9 の COP ファイルをインストールすると、選択したヘッドセットのテンプレートのバージョンは 1-9 になります。COP ファイルと一緒にインストールされるヘッドセットのテンプレートが推奨オプションです。
- ヘッドセットのテンプレートバージョン1-12 を搭載した COP ファイルがインストールされていて、ヘッドセットのテンプレートバージョン1-10 を使用している Unified Communications Manager サーバをアップグレードした場合、選択したヘッドセットのテンプレートのバージョンは 1-12 になります。Unified Communications Manager は、より高いヘッドセットのテンプレートバージョンを選択します。

## ヘッドセットユーザ用のユーザプロファイルの設定

ユーザのユーザプロファイルがまだ設定されていない場合は、次の手順を使用してプロファイルを設定します。ヘッドセットテンプレートは、ユーザプロファイルを使用してユーザに割り

当てられます。すでにユーザプロファイルが設定されている場合は、このタスクをスキップできます。



- (注) 導入要件に応じて異なるユーザのグループに複数のユーザプロファイルを構成します。デフォルトでは、すべてのユーザプロファイルがシステムのデフォルトヘッドセットテンプレートに割り当てられます。ヘッドセットのテンプレートを設定する場合は、カスタマイズされたテンプレートに割り当てることができます。

#### 手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[**ユーザ管理 (User Management)**] > [**ユーザ設定 (User Settings)**] > [**ユーザプロファイル (User Profile)**] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** ユーザ プロファイルの [名前 (Name)] および [説明 (Description)] を入力します。
- ステップ 4** [ユニバーサルデバイステンプレート (Universal Device Template)] を、ユーザの [デスクフォン (Desk Phones)]、[モバイルおよびデスクトップデバイス (Mobile and Desktop Devices)]、および [リモート接続先/デバイスプロファイル (Remote Destination/Device Profiles)] に割り当てます。
- ステップ 5** [ユニバーサル回線テンプレート (Universal Line Template)] をこのユーザプロファイルのユーザの電話回線に適用するために割り当てます。
- ステップ 6** このユーザプロファイルのユーザに自分の電話をプロビジョニングするセルフプロビジョニング機能の使用を許可するには、次の手順を実行します
- [エンドユーザに自分の電話のプロビジョニングを許可 (Allow End User to Provision their own phones)] チェックボックスをオンにします。
  - [エンドユーザのプロビジョニングする電話数を制限 (Limit Provisioning once End User has this many phones)] フィールドに、ユーザがプロビジョニングできる電話の最大数を入力します。最大値は 20 です。
- ステップ 7** このユーザプロファイルに関連付けられた Cisco Jabber ユーザがモバイルおよびリモートアクセス機能を使用するには、[**モバイルおよびリモートアクセスの有効化 (Enable Mobile and Remote Access)**] チェックボックスをオンにします。
- (注) デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。このチェックボックスをオフにすると、[Jabber ポリシー (Jabber Policies)] セクションが無効になり、サービスクライアント ポリシー オプションは、デフォルトで選択されません。
- (注) この設定は、Cisco Jabber ユーザの場合にのみ必須です。非 Jabber ユーザは、この設定がなくてもモバイルおよびリモートアクセスを使用できます。モバイルおよびリモートアクセス機能は、Jabber モバイルおよびリモートアクセスユーザにのみ適用され、他のエンドポイントまたはクライアントには適用されません。

**ステップ 8** このユーザ プロファイルに Jabber ポリシーを割り当てます。[Jabberデスクトップクライアントポリシー (Jabber Desktop Client Policy)] および [Jabberモバイルクライアントポリシー (Jabber Mobile Client Policy)] のドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択します。

- [サービスなし (No Service)] : このポリシーでは、すべての Cisco Jabber サービスへのアクセスが禁止されます。
- [IM & Presence のみ (IM & Presence only)] : このポリシーは、インスタントメッセージとプレゼンス機能だけを有効にします。
- [IM & Presence、音声およびビデオ通話 (IM & Presence, Voice and Video calls)] : このポリシーは、オーディオまたはビデオデバイスを所有しているすべてのユーザーに対して、インスタントメッセージング、プレゼンス、ボイスメール、および会議機能を有効にします。これがデフォルトのオプションです。

(注) Jabber デスクトップ クライアントには、Windows ユーザ用 Cisco Jabber と、Mac ユーザ用 Cisco Jabber が含まれています。Jabber モバイル クライアントには、iPad および iPhone ユーザ用 Cisco Jabber と、Android ユーザ用 Cisco Jabber が含まれています。

**ステップ 9** このユーザ プロファイルのユーザが Cisco Unified Communications セルフケア ポータルで Extension Mobility または Extension Mobility Cross Cluster の最大ログイン時間を設定するには、[エンドユーザにエクステンション モビリティの最大ログイン時間の設定を許可する (Allow End User to set their Extension Mobility maximum login time)] チェックボックスをオンにします。

(注) デフォルトでは [エンドユーザにエクステンション モビリティの最大ログイン時間の設定を許可する (Allow End User to set their Extension Mobility maximum login time)] チェック ボックスはオフになっています。

**ステップ 10** [保存 (Save)] をクリックします。

---

## エンドユーザにユーザ プロファイルを適用する

作成したユーザプロファイルにユーザを関連付ける。このユーザプロファイルはエンドユーザに関連付けられている必要があり、ヘッドセットとテンプレート構成の変更を適用するには、デバイスの MAC を制御されたデバイスの下に追加する必要があります。



---

(注) すべてのユーザがすでにユーザプロファイルに割り当てられている場合は、このタスクをスキップできます。

---



## 手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager のデータベースに新しいエンド ユーザを手動で追加するには、次の手順を使用します。
- [Cisco Unified CM Administration] で、[ユーザの管理 (User Management)] > [エンド ユーザ (End User)] の順に選択します。
  - [新規追加 (Add New)] をクリックします。
  - ユーザのユーザIDと苗字を入力します。
  - ドロップダウンリストから[ユーザ ランク (User Rank)] を選択します。
  - [エンド ユーザ設定 (End User Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。フィールドの説明については、オンライン ヘルプを参照してください。
  - [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 2** エンドユーザをデバイスに関連付けるには、次の手順を実行します。
- [Cisco Unified CM Administration] で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
  - Cisco IP 電話 またはデバイスを選択します。
  - [Device Information] の下で、オーナーとして [user] を選択し、[owner user ID] を選択します。
  - 設定の変更を有効にするには、[Save And Apply Config] をクリックします。

# ヘッドセット テンプレート 管理

Cisco Unified Communications Manager のユーザプロファイルにヘッドセットテンプレートを割り当てて、ユーザのデフォルトのヘッドセットを設定できます。ヘッドセットテンプレートには、ユーザプロファイルに関連付けるオプションがあります。Unified Communications Manager は、次のタイプのヘッドセットテンプレートをサポートしています。

## 標準デフォルト ヘッドセット構成テンプレート

これは、すべてのヘッドセットモデルシリーズの工場出荷時のデフォルト設定を含むシステムのデフォルトテンプレートです。このテンプレートには、すべてのヘッドセットモデルシリーズについて、システムにインストールされている最新のヘッドセットファームウェアでサポートされているヘッドセット設定が含まれています。プロファイル設定を変更することはできませんが、デフォルト設定は編集できません。



- (注) 標準のデフォルトのヘッドセット設定テンプレートは、シスコのヘッドセットサービスがシスコのユニファイドサービスのユーザインターフェイスでアクティブ化されている場合にのみ作成されます。

デフォルトでは、管理者がこれらのユーザプロファイルをカスタム定義されたヘッドセットテンプレートのいずれかに関連付ける場合を除き、すべてのユーザプロファイルが標準のヘッドセットテンプレートに関連付けられます。標準のデフォルトのヘッドセットテンプレートのコピーを作成して、ヘッドセットファームウェアバージョンを含むパラメータのカスタマイズされた値を使用してカスタムテンプレートを作成できます。

### システムによって生成されたカスタムヘッドセットテンプレート

完全なシスコヘッドセットサービスアビリティ機能をサポートしていない一部の以前のリリースでは、管理者が defaultheadsetconfig.json 設定ファイルと TFTP を使用してヘッドセットテンプレートを手動で設定および導入することができます。以前のリリースでこの方法を使用した後でこのリリースにアップグレードした場合、設定ファイルは**システムによって生成されたカスタムヘッドセットテンプレート**に変換され、**[ヘッドセットテンプレートの設定 (Headset Template Configuration)]** ウィンドウに表示されます。このカスタムテンプレートには、設定ファイルを使用したユーザとデバイスが、アップグレードの後に関連付けられます。

### カスタムヘッドセット構成テンプレート

Cisco Unified CM Administration から、**デバイス (Device) > ヘッドセット (Headset) > ヘッドセットのテンプレート (Headset Template)** ウィンドウを使用して、展開のニーズに応じてヘッドセットのテンプレートをカスタマイズします。同じテンプレート内の異なるモデルに異なるヘッドセットパラメータを割り当てることができます。別のヘッドセットモデルに異なるファームウェアロードを割り当てることができます。カスタムヘッドセットの設定は、ユーザプロファイルをカスタムヘッドセットテンプレートに関連付けることによって、特定のユーザのセットに割り当てることができます。

表 3: ヘッドセットテンプレート構成の設定

フィールド	説明
<b>ヘッドセットテンプレートの設定</b>	
名前	一意の名前を入力して、ヘッドセットテンプレートを識別します。
説明	テンプレートの使用を識別できる説明を入力します。
<b>モデルとファームウェアの設定</b>	
モデルシリーズの選択	デバイスに対して信頼性の高い高品質のサウンドを提供する、サポートされているヘッドセットモデルを選択します。

フィールド	説明
追加 (Add)	<p>標準テンプレートの場合、デフォルトの事前定義されたファームウェアバージョンとヘッドセットモデルの設定を表示できます。デフォルト値は編集できません。</p> <p>カスタマイズされたテンプレートの場合は、[追加 (add)] をクリックして新しいヘッドセットモデルと対応する設定を追加します。同じテンプレートに別の既存のヘッドセットモデルを追加することはできません。カスタマイズされたテンプレートには、さまざまなヘッドセットモデルを追加できます。ただし、ヘッドセットモデルごとに使用できるファームウェアは1つだけです。ヘッドセットパラメータの詳細については、次の「ヘッドセットの設定パラメータ」の表を参照してください。</p> <p>標準のデフォルトのヘッドセットテンプレートの設定では、ヘッドセットCOPファイルをインストールするだけで設定を編集できます。</p>
ファームウェア	<p>必要なファームウェアバージョンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [現在のバージョンのまま (current on current version)]: ヘッドセットを既存のファームウェアバージョンのままにする場合(つまり、ヘッドセットファームウェアバージョンがシステムの最新のファームウェアバージョンにアップグレードされていない場合)は、このオプションを選択します。</li> <li>• [最新 (latest)]: ヘッドセットファームウェアバージョンをシステムの最新のファームウェアバージョンにアップグレードする場合は、このオプションを選択します。</li> </ul>
削除	<p>カスタマイズされたテンプレートの場合は、[削除 (Delete)] をクリックしてヘッドセットテンプレートからヘッドセットモデルを削除します。</p>
<b>プロファイルの設定</b>	
使用可能なユーザプロファイル	<p>このヘッドセットテンプレートで使用可能な設定済みのユーザプロファイルを一覧表示します。</p> <p>このテンプレートにユーザプロファイルに関連付けるには、プロファイルを選択し、下矢印をクリックして、割り当てられたユーザプロファイルにテンプレートを移動します。</p> <p>(注) デフォルトでは、すべてのユーザプロファイルが標準のデフォルトのヘッドセット設定テンプレートに割り当てられます。別のテンプレートにユーザプロファイルに関連付けるには、新しいテンプレートを作成し、ユーザプロファイルを新しいテンプレートに割り当てます。</p>

フィールド	説明
割り当てられたユーザプロフィール	このヘッドセット設定テンプレートを使用するユーザプロフィールが一覧表示されます。このプロフィールに割り当てられているユーザの場合、このヘッドセット設定テンプレートの設定は、登録時にシスコのヘッドセットに適用されます。  矢印をクリックして、[Available User Profiles] リストから新しいユーザプロフィールを追加します。

次の表で、各ヘッドセットテンプレートのパラメータについて説明します。



(注) オンプレミスおよびマルチプラットフォームヘッドセットの有用性機能は、RJ-9 接続では使用できません。

表 4: シスコヘッドセット 500 シリーズのパラメータ

パラメータ	範囲	デフォルト	注意
スピーカーの音量 (Speaker Volume)	0 ~ 15	7	ヘッドセットの音のレベルを制御します。0は非常に低く、15の音量が高くなります。  この設定は、オフィス環境の周囲雑音に基づいて設定します。
マイク ゲイン	ソフト-ラウド	デフォルト	[ゲイン (利得)] は、ユーザがコールの他の人に聞こえる音量を制御します。ソフトの場合、ユーザの音が大きくなると、ユーザの音量が大きくなります。  この設定は、オフィス環境の周囲雑音に基づいて設定します。
側音	消灯: 高	低	ヘッドセットを通じて聞こえるユーザの音声の量を制御します。[オフ (off)] は側音をオフにしますが、高の場合、ユーザはヘッドセットマイクからさらに多くのフィードバックを受信します。
イコライザ	ワーム-ブライト	デフォルト	イコライザーの設定を制御します。高い設定は、ユーザのヘッドセットでより多くの低音を聞くことを意味しますが、明るく設定すると、ユーザがより多くの高音を聞くことを意味します。

パラメータ	範囲	デフォルト	注意
[オーディオ帯域幅 (Audio Bandwidth) ]	広帯域、狭帯域	広帯域	<p>でデジタル Enhanced コードレス通信 (DECT) コーデックを制御しCisco ヘッドセット560 シリーズます。</p> <p>高密度 DECT 環境では、このフィールドを [ナローバンド (Narrow Band) ] に設定して、Cisco ヘッドセット 560 シリーズを G.727 コーデックに制限します。</p>
[Bluetooth]	オン、オフ	オン	<p>での Bluetooth の使用を制御Cisco ヘッドセット560 シリーズ (マルチベース) します。このパラメータが [オフ (Off)] に設定されている場合、ベースはペアリングされているすべてのデバイスを削除します。</p>
会議	オン、オフ	オン	<p>での会議機能の使用を制御しCisco ヘッドセット560 シリーズます。会議では、最大3つのゲストヘッドセットを同時に同じベースとペアにすることができます。</p> <p>会議の詳細については、『Cisco ヘッドセット 500 Series User Guide』を参照してください。</p>
ファームウェアの送信元	UCM または Cisco Cloud からの許可 (ファームウェアはアップグレードのみ)、UCM のみに制限 (ファームウェアはアップグレードまたはダウングレード)	UCM または Cisco Cloud からの許可	<p>ヘッドセットのファームウェアアップグレードソースを制御します。</p> <p>デフォルトでは、ユーザは、Unified CM に接続されたデバイスとソフトウェア、またはクラウドに接続されたデバイスまたはソフトウェアを介して、ヘッドセットをアップグレードできます。Unified CM ソースを通じたファームウェアの変更のみを受け入れるようにヘッドセットを制限できます。</p>

パラメータ	範囲	デフォルト	注意
DECT 無線の範囲	Autorange、Medium Range、Short Range	範囲 (中)	<p>Cisco ヘッドセット560 シリーズとそのベースの間の最大距離を制御します。</p> <p>デフォルトでは、ベースの DECT の範囲は、理想的な条件で330フィート (100 m) を超えています。DECT ラジオレンジを <b>[中距離]</b> または <b>[短距離]</b> に構成すると、ヘッドセットベースの消費電力は少なくなりますが、ユーザは通話中、ベースから遠くへ離れることはできません。高密度ヘッドセット展開のために、DECT 無線範囲を <b>短い範囲</b> に設定します。</p> <p>DECT 導入の詳細については、Cisco ヘッドセットの導入に関するホワイトペーパーを参照してください。 <a href="#">Cisco ヘッドセット560シリーズ用に DECT を導入する方法</a> について説明します。</p>
ヘッドセットドックの動作	オン、オフ	オン	着信時にヘッドセットをベースから持ち上げた場合の Cisco ヘッドセット560 シリーズの動作を制御します。

## ヘッドセットテンプレートの設定

シスコヘッドセットに適用できるカスタマイズされた設定でヘッドセットテンプレートを設定するには、次の手順を使用します。カスタマイズしたテンプレートを作成するか、システム定義の標準のデフォルトのヘッドセットテンプレートを使用できます。



- (注) 標準のデフォルトのヘッドセット設定テンプレートは、システム定義のテンプレートです。標準のデフォルトのヘッドセットテンプレートに新しいユーザプロファイルを割り当てることはできますが、テンプレートを編集することはできません。デフォルトでは、すべてのユーザプロファイルがこのテンプレートに割り当てられます。このテンプレートからユーザプロファイルの関連付けを解除するには、新しいテンプレートにプロファイルを割り当てる必要があります。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、**[デバイス (Device)] > [ヘッドセット (Headset)] > [ヘッドセットテンプレート (Headset Template)]** を選択します。

**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- 既存のテンプレートを編集するには、テンプレートを選択します。
- 新しいテンプレートを作成するには、既存のテンプレートを選択し、[コピー(Copy)]をクリックします。既存の設定が新しいテンプレートに適用されます。

**ステップ 3** テンプレートの [名前 (Name)] と [説明 (Description)] を追加します。

**ステップ 4** [モデルとファームウェアの設定 (Model and Firmware Settings)] で、このテンプレートに適用するカスタマイズされたヘッドセット設定を割り当てます。新しい設定を追加するには、[追加 (Add)] ボタンをクリックして設定項目を指定します。

**ステップ 5** 上下の矢印を使用して、このテンプレートに割り当てられているユーザプロファイルを、[割り当てられているユーザプロファイル (Assigned Users Profiles)] リストボックスに移動します。これらのプロファイルに割り当てられているすべてのユーザは、このヘッドセットテンプレートにも割り当てられます。

**ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。

**ステップ 7** デフォルトのテンプレート設定に戻すには、[デフォルトに設定 (Set to Default)] ボタンを使用します。

**ステップ 8** [設定の適用 (Apply Config)] をクリックします。

標準のデフォルトヘッドセット構成テンプレートでは、以下に対して [設定の適用 (Apply Config)] ボタンが有効になります。

- 割り当てられたユーザプロファイルリストに追加したユーザが所有しているデバイス
- 名前非表示のデバイス

カスタマイズされたヘッドセット構成テンプレートでは、[割り当てられているユーザプロファイル (Assigned User Profiles)] リストに追加されたユーザが所有するデバイスに対してのみ [設定の適用 (Apply Config)] ボタンが有効になります。

## ファームウェア管理

Unified Communications Manager に接続されているほとんどの電話機およびデバイスは、Cisco ヘッドセット 500 シリーズおよび Cisco ヘッドセット 700 シリーズをサポートしています。ヘッドセットを電話機に接続する前に、最新の電話機のファームウェアリリースおよびデバイスパッケージをインストールしてください。ヘッドセットが初めて接続すると、必要なファームウェアがダウンロードされ、アップグレードプロセスが開始されます。

特定のヘッドセットモデルでは、次の2つのファームウェアオプションがサポートされています。

- **[現在のバージョンのまま (current on current version)]**: ヘッドセットを既存のファームウェアバージョンに維持する場合は、このオプションを選択します (つまり、ヘッドセットファームウェアバージョンは最新のシステムファームウェアバージョンにアップグレードされません)。

- **最新:** ヘッドセットをアップグレードまたはダウングレードするには、このオプションを選択します。選択したソフトウェアが、ヘッドセットの現在のファームウェアより古いリリースであっても、システムによってインストールおよび実行されます。

たとえば、最新版として**1-5-1-10**を選択すると、現在ヘッドセットに**1-5-1-9**または**1-5-1-11**があるかどうかに関係なく、そのファームウェアがヘッドセットにインストールされます。

#### ファームウェアに関する考慮事項

- 標準のヘッドセットテンプレートに割り当てられたユーザは、常に最新のヘッドセットファームウェアと設定を受信します。
- ヘッドセットテンプレート設定 (標準とカスタムの両方) に表示される設定は、すべてのヘッドセットモデルシリーズの**最新のファームウェア**に常に設定されます。

## ヘッドセットインベントリの管理

Cisco IP 電話は、ヘッドセットが接続状態または切断状態になるたびに、ヘッドセットインベントリデータを Unified Communications Manager に送信します。Unified Communications Manager は、インベントリデータを保存するため、このサーバに展開されているすべてのヘッドセットについて、インベントリの要約レポートまたはカスタムインベントリレポートを生成できます。

レポート情報には、ヘッドセットのシリアル番号とモデル番号、ドッキングステーションの詳細、ファームウェア、使用されている設定テンプレート、ベンダーの詳細、およびデバイスへのヘッドセットの接続ステータスが含まれます。

## ヘッドセットインベントリの設定

Cisco Unified CM Administration は、**デバイス > ヘッドセット > ヘッドセットインベントリ**ウィンドウを使用して、サーバ上に展開されているすべてのヘッドセットの一覧を表示します。この情報を使用して、導入されているすべてのヘッドセットのレポートを生成できます。デバイスのシリアル番号をクリックすると、個々のヘッドセットの詳細がポップアップウィンドウに表示されます。



表 5:ヘッドセットインベントリの設定

フィールド	説明
シリアル番号 (Serial Number)	<p>ヘッドセットのシリアル番号。この番号は、個々のヘッドセットごとに固有です。</p> <p>Cisco ヘッドセット 520 および 530 Series は、USB コントローラで見つかったシリアル番号をレポートします。Cisco ヘッドセット 560 および 700 Series は、左側のアームバンドの内側にあるヘッドセットのシリアル番号をレポートします。</p> <p>(注) シスコ製以外のヘッドセットの場合、デバイス名がシリアル番号として使用されます。複数の電話機で同じ非シスコヘッドセットを使用すると、重複するヘッドセットレコードが作成されます。</p> <p>(注) 特定のヘッドセットのシリアル番号の位置については、そのヘッドセットモデルのヘッドセットのアドミニストレーションガイドを参照してください。</p>
Model	ヘッドセットのモデル番号。
ベンダー	ベンダーの詳細を表示します。
タイプ	ヘッドセット接続の種類 (有線、DECT ワイヤレス、または不明) を示します。
ファームウェア	ヘッドセットの最新のファームウェアロードを表示します。
付属電話の所有者のユーザ ID	電話機またはデバイスを使用するエンドユーザの情報を表示します。関連付けられているヘッドセットがない場合は、このフィールドには何も含まれません。
ヘッドセットの所有者	ヘッドセットのシリアル番号に関連付けられているエンドユーザの情報を表示します。
テンプレート	ヘッドセット設定テンプレートの名前を表示します。
ステータス (以降)	ヘッドセットのアクティビティステータスが表示されます。接続されているか、切断されている可能性があります。
ドックモデル	ドッキングモデルステーションのタイプが表示されます。
デバイス名 (Device Name)	ヘッドセットが接続されているデバイスの名前。
Device Model	Cisco IP 電話または Cisco Jabber モデル番号を表示します。たとえば、CP-8865 は Cisco IP 電話 モデルです。CSF は、Windows 用の Cisco Jabber for Mac または Cisco Jabber のいずれかのデバイスタイプです。

フィールド	説明
ソフトウェアバージョン	使用されているソフトウェアの最新バージョンが表示されます。これは、電話機のファームウェアまたはJabberのソフトウェアバージョンです。
ヘッドセットの経過時間(日数)	ヘッドセットの使用年数を表示します。レコードが削除された場合は、ヘッドセットの使用年数がリセットされます。

## ヘッドセットインベントリの管理タスクフロー

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<a href="#">ヘッドセットインベントリの表示 (18 ページ)</a>	サーバ上に展開されているヘッドセットを一覧表示します。
ステップ2	<a href="#">電話の所有者をヘッドセットの所有者として関連付け (18 ページ)</a>	ヘッドセットをユーザに関連付けます。

## ヘッドセットインベントリの表示

サーバに展開されているすべてのヘッドセットの完全なリストを表示できます。この情報を使用して、導入されているすべてのヘッドセットのレポートを生成できます。

### 手順

**ステップ1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [ヘッドセット (Headset)] > [ヘッドセットインベントリ (Headset Inventory)] を選択します。

**ステップ2** 次のいずれかを実行します。

- [検索 (Find)] を選択すると、サーバに展開されているヘッドセットの完全なリストが表示されます。
- 1つ以上の検索条件を検索ボックスに入力し、[検索 (Find)] を選択します。

## 電話の所有者をヘッドセットの所有者として関連付け

ユーザに一括ヘッドセットを関連付けるには、次の手順を使用します。

## 手順

**ステップ 1** [Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [ヘッドセット (Headset)] > [ヘッドセットインベントリ (Headset Inventory)] を選択します。

**ステップ 2** サーバに導入されているヘッドセットの完全なリストを表示するには、[検索] をクリックします。

**ステップ 3** [すべて選択] をクリックするか、必要なシリアル番号を選択し、[ヘッドセットの所有者として電話機の所有者を関連付ける] をクリックしてヘッドセットをユーザに関連付けます。

(注) すでに関連付けられているか、または電話の所有者が関連付けられていない場合、ヘッドセットを関連付けることはできません。ヘッドセットの関連付けは、ページが再ロードされた後、[ヘッドセットの所有者] 列で表示されます。

特定のユーザに最大15個のヘッドセットを関連付けることができます。特定のユーザの最大制限に達すると、残りのヘッドセットは割り当てられず、エラーが表示されます。

**ステップ 4** (任意) 必要なシリアル番号を選択し、[ヘッドセット所有者の割り当て解除] をクリックして、選択したユーザからヘッドセットのシリアル番号を切り離します。

(注) ヘッドセットの所有者に関連付けられていないヘッドセットの関連付けを解除することはできません。

**ステップ 5** (任意) エンドユーザの設定とヘッドセットの関連付けの詳細を表示するには、[接続された電話機の所有者ユーザ ID] または [ヘッドセットの所有者] 列の [ユーザ名] リンクをクリックします。

(注) [エンドユーザー設定 (End User Configuration)] ウィンドウに、ヘッドセットの関連付けと解除の詳細が表示されます。

## ヘッドセット インベントリの概要

Cisco Unified CM Administration から、デバイス > ヘッドセット > ヘッドセットインベントリの概要ウィンドウを使用して、ヘッドセットインベントリの概要ウィンドウで導入されたヘッドセットの要約を表示することができます。

### モデルごとのヘッドセット インベントリ

フィールド	説明
ヘッドセットモデル	ヘッドセットのモデル番号。

## 導入されたヘッドセットの集約サマリーを取得する

フィールド	説明
数量	導入環境内の各モデルタイプのヘッドセットの数を示します。  (注) [数量 (Quantity)] 列のリンクをクリックして、[モデルタイプ (model type)] によってフィルタリングされた詳細なヘッドセットインベントリページに移動します。

### ステータス別ヘッドセットインベントリ

ヘッドセットモデル、アクティブ、非アクティブ、または割り当てられていない列のハイパーリンクをクリックして、各ステータスの詳細なヘッドセットインベントリページに移動します。

フィールド	説明
ヘッドセットモデル	ヘッドセットのモデル番号。
アクティブ	ヘッドセットは過去30日以内に接続されています。
非アクティブ (Inactive)	ヘッドセットが過去30日間に接続されていません。
Unassigned (未定義)	ユーザ ID がシステムに存在しないか、インベントリレコードにユーザ ID マッピングがありません。

## 導入されたヘッドセットの集約サマリーを取得する

[ヘッドセットインベントリの概要(ヘッドセットインベントリの概要)] ウィンドウで、展開したヘッドセットの集約サマリーを表示できます。

### 手順

Cisco Unified CM の管理で、[Device][ヘッドセットの>>インベントリの概要] を選択します。ヘッドセットインベントリの内訳は、モデル別またはヘッドセットステータス別に表示できます。

## ヘッドセットトラブルシューティングと診断

Cisco IP Phone に接続されているヘッドセットの問題レポートツール (PRT) ログを収集するために、Unified Communications Manager または Cisco ユニファイドリアルタイムモニタリング

ツール (RTMT) を設定できます。PRT には、コール品質、使用されているコーデック、音声設定、ワイヤレス設定、およびアラートログに関するデータが含まれています。

Unified Communications Manager は、ヘッドセットのコール診断の詳細を保存します。Cisco IP 電話は、BYE メッセージまたは BYE メッセージへの 200 OK 応答のいずれかでヘッドセット統計ヘッダーのヘッドセット診断データを送信して、Unified Communications Manager の CMR を更新します。

Cisco IP 電話は、ヘッドセット診断データを Unified Communications Manager と共有します。この情報は、CMR レコードの以下のフィールドに保存されます。

- SN—ヘッドセットのシリアル番号。
- メトリックス—RSSI フレームエラー、接続ドロップの理由、ビーコンの移動、オーディオ設定、および DECT 帯域幅などのヘッドセットメトリック。

CMR レコードのエクスポートおよび表示方法の詳細については、*Cisco Unified Communications Manager* のコール レポートおよび請求管理ガイドを参照してください。



(注) ヘッドセット CMR レコードは、シスコ ヘッドセット 500 シリーズに適用されますが、700 シリーズには適用されません。

## Unified CM でエンドポイントの PRT を生成する

エンドポイントで問題レポートツール (PRT) をトリガーするには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、[デバイス (Device)] > [電話機 (Phone)] の順に選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、ヘッドセットが接続する1つ以上の電話機を選択します。
- ステップ 3** 選択した電話機で使用されているヘッドセットの PRT ログを収集するには、[**GENERATE prt For selected**] をクリックします。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco Unified Communications Manager は SIP Notify メッセージを送信して、電話機のログ収集をリモートでトリガーし、[カスタマーサポートアップロード URL (Customer support upload URL)] パラメータで設定されたログサーバにアップロードします。

## RTMT でのエンドポイントの PRT の生成

デバイスまたはエンドポイントは、診断およびトラブルシューティングのために、各クリティカルイベントのアラームを生成します。これらのアラームは、Cisco ユニファイドリアルタイムモニタリングツール (RTMT) ユーザインターフェイスの [トレース収集 (Trace Collection)] メニューまたは [デバイスモニタリング (Device Monitoring)] メニューで使用可能な問題レポートツール (PRT) を使用して生成されます。

### 手順

- 
- ステップ 1 [Trace & Log Central] オプションを展開します。
  - ステップ 2 Trace & Log Central tree 階層で、[ **GENERATE PRT** ] を選択します。  
[Generate PRT] ウィザードが表示されます。
  - ステップ 3 Cisco Unified CM Administration ユーザインターフェイスの [電話の検索と一覧表示 (Find and List Phone)] ページで設定されているデバイス名を入力します。
  - ステップ 4 [ **GENERATE PRT** ] をクリックします。

生成されたレポートは、**カスタマーサポートのアップロード URL** にアップロードされます。[ダウンロード (download)] オプションは、Cisco の Unified CM Administration ユーザインターフェイスで、**カスタマーサポートアップロード URL** パラメータがエンタープライズ、プロファイル、またはデバイスレベルで設定されている場合にのみ使用できます。

(注) [Enterprise]、[Profile]、または [Device level configuration] ページの設定で、[ **Customer support UPLOAD URL** ] パラメータを確認します。それ以外の場合、PRT の生成は失敗します。

---

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。